

平成24年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記・湯川洋司

研究分担者：森野正弘・平野芳信・根ヶ山徹・更科慎一・高橋征仁・坪郷英彦

研究協力者：郭玲玲

○研究の概要と結果

1. 日本古代における物語文学がいかなる説話伝承の影響を受けているかについて解明すべく、平安期の文学作品である『源氏物語』の説話引用の諸相について考察する。その結果、『源氏物語』の明石の君という人物の造型において、平安期の女流歌人伊勢にまつわる説話伝承が引用されている様相について解明した。(森野)
2. 近代文学における「話型論」の研究を行う—古典文学の「話型論」を近代文学に適用することにより、広く日本・韓国・中国における文学作品及び映像作品について、その話型（構造）を比較研究し、話型の発生する要因を分析する。本年度は前々年度・前年度の成果を踏まえて村上春樹の作品だけに留まらず、より広範囲の作家及び作品における話型論研究を展開する。(平野)
3. 明代に上梓された『牡丹亭還魂記』版本のうち、台湾国家図書館所蔵石林居士刻本、中国国家図書館所蔵万曆間刻本、及び京都大学文学部所蔵懷徳堂朱氏刻本、首都図書館所蔵朱氏玉海堂刻本について、刻字、内容について比較対照した。その結果、石林居士刻本が最も古く、万曆間刻本は石林居士と同じ版木を用いた修訂版、朱氏玉海堂刻本刻本は万曆間刻本と同一版を用い、懷徳堂朱氏刻本はその重刻本であることが明らかになった。また、清初の呉呉山三婦の評点本『牡丹亭還魂記』の底本については不明とされてきたが、該書と先行する諸版本と対校した結果、安雅堂刻本が底本であることがわかった。また閨房の女性が演劇を受容する際の特徴として、読曲を強く意識した畳句・詩詞の刪去、賓白の口語から文語へ改変が見られることが明らかになった。(根ヶ山)
4. 中国では伝統的に教育を受ける機会が少ない民衆のために各地で芸能を通じた民衆啓蒙活動が行われてきた。本研究ではそうした各地の種々の芸能を通じた民衆啓蒙活動の実態を明らかにする。本年度は上海において多数の宣講資料を収集し、清末における宣講が全国各地で行われていたことを把握した。(阿部)
5. 中国において仏教伝来以来の長い歴史を有する異民族言語学習に関する研究を行う。具体的には、明清代に編纂された各種の異民族言語の学習書や辞書を対象として文献学的及び言語学的分析を行い、異言語学習を通じて現れる言語接触の諸現象について明らかにする。平成24年度においては、中国における異民族言語学習の歴史に関する研究として、明清代に編纂された『華夷訳語』を研究対象とした。『華夷訳語』とは、朝廷に上ってくる公文書の翻訳を業務とす

る四夷館及び外交使節の接待を業務とする会同館において異民族言語の教科書として使用された一連の書の総称であり、日本語や琉球語を含むアジア地域の数多くの言語を対象とした各種の版がある。今回は、そのうち、ツングース系の言語である女真語（清代の満州語とごく近い）の語彙を記録した『女真訳語』の音訳漢字を研究して、その成果を論文『三種本女真訳語の音訳漢字に反映された女真語の音声的特徴について—超文節的特徴を中心に—』として発表した。（更科）

6. どのような文化も、逆境と再生の物語を持つ。このような物語が、実際に人々の間でどのように利用され、人生を意味づけ、心の免疫を作っていくのかについて、東日本大震災の避難生活者を事例として研究した。具体的には、「福島避難者のつどい 沖縄じゃんがら会」やその支援団体についてのインタビュー調査を継続することによって、強い絆ではなく、弱いネットワークが創発的効果を生んでいることが明らかになった。（高橋）
7. 草屋根葺きの技術及び習俗を継続して調査研究している。これまで調査を継続してきた文化財民家の解体修理と屋根の葺き替えの状況調査（埼玉県秩父市）と良質の材料供給のための茅場が文化財の森に指定され、山焼きが25年ぶりに再開されたため相互扶助の実態調査を実施した。結果として文化財民家を事例として秩父地域の生活サイクルと屋根の維持についてまとめた。山焼きについては自然生態の維持の為の相互扶助とその現代的意味について成果公表の予定である。（坪郷）
8. 昨年度に引き続き、地方村落の生活・文化継承に関する研究をテーマにし、今年度は民俗芸能や民俗行事の復活・継承への努力がなされている事例の収集を課題とした。福島県南会津地方の南会津町小塩の神楽、同町鴉巢の早乙女踊り、檜枝岐村の歌舞伎（地芝居）を対象に、関係者・伝承者から聞き書き調査を実施し、継承の実態に関する具体的資料を得ることができた。（湯川）

○研究成果の一覧

- (1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）
- ・森野正弘、「明石の君と伊勢」、山口国文、36号、2013年3月1日、1-16頁
- ・根ヶ山徹、「石林居士序刻本《牡丹亭還魂記》與其補版、重刊本簡説」、『湯頭祖研究通訊』〔中国戯曲学会湯頭祖分会〕、2012年第1期（総第15期）、2012年9月、50-56頁
- ・根ヶ山徹、「《呉山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析」、鄭培凱・趙天為主編『文苑奇葩湯頭祖：中国戯曲芸術研討会論文集』（広西師範大学出版社）、2012年9月、148-168頁
- ・阿部泰記、「『宣講彙編』四卷一案証の再編」、アジアの歴史と文化、17輯、平成25年3月31日、1-13頁
- ・阿部泰記、『宣講拾遺』—『宣講集要』を継承した宣講書、東アジア研究、11号、平成25年3月、225-238頁
- ・阿部泰記、「吉林の宣講書『宣講大成』について」、山口大学文学会志、63巻、平成25年3月、1-20頁
- ・更科慎一、「三種本女真訳語の音訳漢字に反映された女真語の音声的特徴について—超文節的特徴を中心に—」、『太田斎古屋昭弘教授還暦記念中国語学論集』（好文出版）、2013年3月、

141-152頁

- ・高橋征仁、「弱い絆の強さー沖縄県における原発事故避難者レポート」、『建築雑誌』、vol.128、no.1646、2013年6月号、6-7
 - ・坪郷英彦、「重要文化財建造物内田家の住まいと暮らし」、やまぐち学の構築、9号、平成25年3月31日
 - (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
 - ・森野正弘、「明石の君と歌人伊勢」、山口大学人文学部国語国文学会、平成24年5月13日
 - ・高橋征仁、「弱い絆の強さー沖縄県における原発事故避難者のネットワーク」、日本社会心理学会第54回大会（沖縄国際大学）、2013年11月2日
 - (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）
 - ・平野芳信、『食べる日本近現代文学史』、光文社、平成25年2月、206頁
-

○プロジェクト名

東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的、実証的比較研究

○研究組織

研究代表者：植村高久・塚田広人・横田伸子

研究分担者：横田尚俊・渡邊幹雄・濱島 清・朝水宗彦・角田由佳・陳 建平・石川耕三・
袁 麗暉・福田吉治・小柴久子

○研究の概要と結果

（日本を除く）東アジアの経済発展は急速な新興富裕層・新興中間層の増大を伴いつつ、概して格差拡大として特徴付けられる「新しい格差」の発生と複雑な動態的变化が進むという固有の特徴を持つ。これはヨーロッパ諸国やアメリカとは明らかに異質で、たんなる所得の格差を超えて、教育・医療・生活環境・コミュニティのあり方等、非常に多面的なアクセス可能性の違いという特徴を示している。格差拡大が大きなテーマになっている日本も含めて（さらに東アジア以外の諸国との対比も交えつつ）、こうした東アジア諸国の格差について、各国ごとの差異と共通性に注目しつつ、その全体像と側面間のつながりを明らかにすることがこの研究の第1の目的である。

さらに、東アジア諸国の多くが急速な経済発展の途上で急激な高齢化を迎えることが将来の深刻な問題をもたらす可能性が高い。旧来の社会の分解が進んだため高齢化に対処するための公的社会保障制度の整備が必要となるが、ふつう社会保障制度（年金等）は制度創設から定常的な機能に至るまでかなりの期間を要する。この点を考慮すれば、格差が生む問題が高齢化によって顕現・深刻化し、非常に厳しい社会問題に発展する事態が予想される。本研究は格差の実態とともに将来に向けた推移と社会保障制度などの整備状況を検討することを通じて、急速な高齢化の社会的意義を解明することを第2の目的にする。

研究期間は3年としており、本年度は2年目である。成果は研究期間終了後に図書として刊行する予定である。本年度は、

- ①立案された研究計画に従い、各プロジェクト参加者は分担する研究を遂行し、一部は成果の公表にまで至っている。
- ②現地調査についてはほぼ予定通り実施した。
- ③資料等についても順調に蓄積が進んでいると思われる。
- ④25年3月8日に東アジア各国医療保険制度の比較研究の第一人者である滋賀大学・李蓮花准教授を招聘して総括ワークショップを開催した。
- ⑤なお、メンバー（研究代表者）である横田伸子は著書『韓国の都市下層と労働者』により、平成24年度社会政策学会・奨励賞を受賞した

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・袁麗暉,「中国農民工医療保険制度に関する一考察—山東省済南市農民工を対象とするアンケート調査を中心に—」『東アジア研究』11, 2013/03
- ・Munehiko Asamizu, "Rural Tourism as a Means to Mitigate Economic Disparity in Japan", in Andreas Kagermeier and Jarkko Saarinen eds, *Transforming and Managing Destinations: Tourism and Leisure in a Time of Global Change and Risks*.
- ・浜島清史,「段階論と労働経済論—段階論の再構築と日本における雇用形態の変容—」『山口経済学雑誌』61/2, 2012/07
- ・石川耕三,「東南アジア経済とグローバル化」(渋谷博史・河崎信樹・田村太一編『世界経済とグローバル化』, 学文社), 2013

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- ・横田伸子,『韓国の都市下層と労働者』ミネルヴァ書房, 2012/09
- ・塚田広人,「社会的排除と格差拡大」(塚田広人・横田伸子編『東アジア社会における格差拡大と諸問題』御茶ノ水書房, 2012/09)
- ・横田伸子,「韓国における生産体制と雇用構造の変化」(塚田広人・横田伸子編『東アジア社会における格差拡大と諸問題』御茶ノ水書房, 2012/09)
- ・福田吉治,「日本における社会格差と健康」(塚田広人・横田伸子編『東アジア社会における格差拡大と諸問題』御茶ノ水書房, 2012/09)
- ・陳建平,「中国における生産体制と雇用構造の変化」(塚田広人・横田伸子編『東アジア社会における格差拡大と諸問題』御茶ノ水書房, 2012/09)
- ・袁麗暉,「中国の医療保険制度における医療格差の是正に向けて」(塚田広人・横田伸子編『東アジア社会における格差拡大と諸問題』御茶ノ水書房, 2012/09)

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：石田成則

研究分担者：中田範夫・城下賢吾・李海峰・有村貞則

○研究の概要と結果

これまで継続してきた研究プロジェクトでは、企業経営および市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業の実態調査に従事し、その経営戦略、組織そして人材育成について研究してきた。また、サービス産業とくに東アジア諸国の人口高齢化を睨んで、医療・介護経営に特化して調査している。そして、病院を中心とした医療施設・介護福祉施設経営のあり方と医療供給体制や医療費管理に果たす企業の役割に焦点を絞り、それを理論と実証の観点から分析した。さらに、従来の実態調査結果を踏まえつつ、こうした産業・事業における問題点を抽出し、その解決のために政策提言を行った。具体的には、これまでに実施したアンケートおよびインタビュー調査を統計的に処理して分析するとともに、優れた経営力を持つ施設については事例研究として取りまとめた。そのうえで、患者や施設利用者へのサービス水準を向上させるために、どのような管理体制や組織を構築すべきか、またどのように人材を養成すべきかについて考察を加え、効果的な病院や施設マネジメントについて提言を行った。とくに、看護婦や介護福祉士の業務に焦点を当て、医療・介護事故を減らしてより高い水準のサービスを提供する方途を解明した。提言では、こうした職種のスキル向上のために、長期に安心して勤務できる体制作りが第一に重要とした。勤続年数の長期化のためには、1) 社内教育・研修体制の充実、2) スキルアップのためのモチベーションの向上、3) リスク情報の共有化、以上の3点が必要となることを指摘した。そして、こうした要因によりサービス水準がどの程度引き上げられるかについて、実証分析を展開し望ましい施策を考案した。

こうした理論ベースに基づき、わが国をはじめとした先進国と中国を中心としたアジア諸国の医療制度の現状と課題、医療制度における官民保険者の役割、そして個別病院の財務・会計分析を展開し、いくつかの論文を専門雑誌・紀要に投稿し、さらに学会報告を行った。

メンバーの一員である石田は、2013年度の日本保険学会全国大会（愛知学院大学）において、シンポジウム「医療保障制度における官民の役割分担」にパネリストとして参加し、先進諸国における医療制度の比較分析とわが国における保険者機能の実証分析結果を報告した。そこでは、先進諸国における医療政策の展開を歴史的に概観したうえで、医療制度における新たな保険者の役割について提言した。とくに、健康診断や検診事業、レセプト・データと診療報酬に関するデータの収集と分析などに果たすべき役割に論及し、その現状を市町村ベースのデータによって検証した。こうした報告内容と質疑応答、そしてシンポジウム録は、来年度の学会誌に掲載予定である。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・中田範夫・花田千鶴美、マンパワー（新卒看護師）の増加・新人教育強化が看護サービスに及ぼす影響について—BSCによる4つの視点より—、山口経済学雑誌、第61巻第6号、平成25年3月、135-166頁
- ・中田範夫稿・花田千鶴美、国立大学法人化に関するアンケート調査—ある病院のケース—、東亜経済研究、第71巻第1号、平成24年7月、31-44頁
- ・城下賢吾・木下真、4%ルールは可能か—日米比較—、山口経済学雑誌第62巻第1号、平成25年5月、15-50頁
- ・Jinwoo Park, Kengo Shiroshita, Naili Sun, Information flow between the CDS and the stock market and Informed trading: Evidence from the CDS market, Working paper (レフリー制雑誌に投稿中)
- ・石田成則、年金基金のガバナンス再考、週刊社会保障2723号、2013年3月、44-49頁
- ・石田成則、企業年金制度の課題と将来、週刊社会保障（夏季特別号「社会保障読本2013年版」）2739号、2013年8月、120-123頁
- ・石田成則、企業年金におけるリスク管理とガバナンス、季刊社会保障研究Vol.49、2013年10月、180-192頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- ・中田範夫、BSC採用病院に関する実態調査について—平成16年から平成25年の間の調査より—、日本医療バランスト・スコアカード研究学会第11回学術総会、2013年11月9日
- ・中田範夫・張馨元、中国企業におけるMFCAの実態について—調査をベースとして—、中国経済学会（岡山大学）、2012年11月25日
- ・孫乃立・城下賢吾、時系列モデルに基づく社債クレジットスプレッド推定、日本経営財務研究学会九州部会、平成25年4月13日
- ・Jinwoo Park, Kengo Shiroshita, Naili Sun, Information flow between the CDS and the stock market and informed trading: Evidence from the CDS market, APAD conference in Busan, 2013年8月23日
- ・Jinwoo Park, Kengo Shiroshita, Naili Sun, Information flow between the CDS and the stock market and informed trading: Evidence from the CDS market, 日本経営財務研究学会全国大会、2013年10月6日
- ・Jinwoo Park, Kengo Shiroshita, Naili Sun, Time-varying relationship between Japanese CDS and Equity markets, 9th International conference on Asian Financial markets and Economic development in Fukuoka, 2013年12月7日
- ・石田成則、医療保障における官民役割分担、日本保険学会（愛知学院大学）、2013年10月22日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

○プロジェクト名

東アジアの教育におけるグローバル化と伝統文化

○研究組織

研究代表者：福田隆真

研究分担者：吉村 誠・村上林造・森下徹・葛崎偉・石井由理・松岡勝彦・西村正登

研究協力者：林 曼麗（台湾：国立台北教育大学）・羅 永華（中国：香港大学）・

ラム・チーフー（シンガポール：南洋工科大学国立教育学院）・

金 香美（韓国：淑明女子大学）・吉川幸男（山口大学教育学部）・

阿川祥子（山口市立阿知須中学校）・足立直之（山口市教育委員会）

○研究の概要と結果

グローバル化する東アジア、東南アジアにおいて、我が国を含めて、教育におけるグローバル化と伝統文化について、現状調査、教育内容を研究する。研究分野としては、教育学、心理学、教科教育としての言語、国語、美術、音楽、歴史、情報そして教育課程である。24年度は、それぞれの分野でのグローバル化の認識と、伝統文化の教育的取扱いについて調査研究を行う。

教育学の道徳教育においては西村が「価値の明確化論を基盤にした道徳教育授業の研究」「物語から学ぶ心の教育」などにおいて道徳教育の内容を明らかにしている。心理学では松岡が特別支援の教育における教材研究を行っている。教科教育の分野として、言語学では有元が熊本、大分を対象とした言語の分析を行っている。また、吉村、村上は、万葉集の研究や宮沢賢治の研究において、伝統文化の位置づけを行っている。美術教育では福田がベトナムにおける中等美術教育の教材分析をおこないグローバル化した教材と伝統的教材を述べている。音楽教育では、石井が日本とタイを対象にして「グローバル化の教育と音楽文化」を述べている。歴史では森下が萩藩における江戸時代の伝統文化の教材研究を行っている。情報教育では、葛が中国人の日本語教育のためのシステムの開発を行った。教育課程では、福田が現行の学習指導要領と教材について美術教育を対象に行った。総じて研究は各分野においてグローバル化と伝統文化の観点から研究テーマの設定を行っている。

このプロジェクト研究では、平成24年12月1日に開催した東アジア国際学術フォーラムのための基礎研究を行ってきた。そして、フォーラムでは、以下のような内容を口頭発表した。

- ・林曼麗「美感と創新：芸術教育の過去、現在と未来」
- ・羅永華「グローバル化、文化的伝統、そして教育—中国の苦闘と体験」
- ・ラム・チーフー「グローバル化と伝統文化—シンガポールの音楽教育の展望」
- ・金香美「韓国の学校教育におけるグローバル化と伝統文化教育」
- ・吉川幸男「今日の日本における伝統や文化教育の論点と課題」
- ・阿川祥子「日本伝統音楽の魅力を探る」
- ・足立直之「美術教育におけるグローバル化と伝統文化—中学校美術科における教材と指導方法の一事例から」

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等 (発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ)

- ・松岡勝彦・井下寛子・吉村 祭, 学生スタッフ訪問方式による発達障害のある児童生徒への支援のあり方. 日本特殊教育学会第50回大会発表論文集 (2012).
- ・井下寛子・松岡勝彦, 学生スタッフ訪問方式による自閉症児に対する自動販売機利用スキルの形成と般化. 山口大学教育学部研究論叢, 62 (3),373-380 (2013).
- ・吉村 祭・松岡勝彦, 学生スタッフ訪問方式による自閉症生徒に対する鉄道利用スキルの形成. 山口大学教育学部研究論叢, 62 (3),381-390 (2013).
- ・Yuri Ishii, Globalization, Education and Music Culture: A comparative study of Japanese and Thai students' perception of their musical culture
- ・有元, 「タイプPD」, PG方言の発見—熊本県北東部・大分県中西部方言の動詞テ形における形態音韻現象—『研究論叢 (山口大学教育学部)』第62巻・第1部, pp.37-55, 2013年1月
- ・Zuohua Ding, Hui Shen, Q.W.Ge, "Checking system boundedness using ordinary differential equations", Information Sciences Vol. 187, pp.245-265 (2012).
- ・袁, 葛, 成富, "中国人学習者向けの日本語語彙e-learning システムの提案—漢字を媒体とした語彙知識移転を目指して—", コンピュータ&エデュケーション, Vol.32, pp.59-64 (2012).
- ・森下 徹, 『武士という身分—城下町萩の大名家臣団』(吉川弘文館、2012年7月、224頁)
- ・森下 徹, 「大名家臣団と城下町」「山口町と地域経済」「瀬戸内地域の労働社会」(杉森哲也編『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年3月、135～179頁)

(2) 口頭発表 (発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)